



お花見に行った元荒川沿いの桜の葉等を材料にしています。近所に散歩や運動に行ったときに、季節を感じながらみんなで植物を採ったりしますが、散歩するよりも採取することに夢中になることがあります。染めるまでの工程はとても大変ですが、糸がきれいに染まったり、製品ができた時は、みんなで喜んでいきます。今年4年振りに行われた作品展にむけて、草木染の糸で組み紐キーホルダーやコースター、アクセサリー、ヘアゴムなど沢山の製品を作りました。最初は1つも売れなかったらどうしよう…と心配でしたが、会期中たくさんの方々が手に取ってくれたり、買っていただくことができました。お褒めの言葉もいただき、本当に仲間たちの励みになったと思います。作品展のあとには、作業所の中でマリーゴールドやバタフライピーの花を育てました。水やりをしている姿も「花、咲いたね!」と報告しに

来る姿も嬉しそうでした。これからも、草花を育てたり、採取に出かけたり、どんな色になるかわくわくしながら染められたらと思っています。また、班では週に1回表現活動の時間があり、絵を描いたり、織りやフェルト人形作り、刺繍などを行っています。今年度はKさんが埼玉県立近代美術館で行われた「アート企画展」や銀座の Gallery Nayuta に絵が展示されました。自分の作品が飾られたことはとても嬉しかったようです。みんなでアート企画展を見に行くこともできました。来場されている方にもその場で絵を褒められ、作品ができるまでの背景などを質問されました。誇らしげに嬉しそうに答えていた姿が印象的でした。作業所に帰ってきて感極まってしまったのか「うれし」と涙を流していました。みんなから「すごいね。良かったね」と声もかけてもらいました。とてもよい経験になったと思います。Tさんもアート企画展がきっかけで埼玉県オンライン美術館に掲載してもらったことになりました。美術大学の学生さんと県の職員が取材に来ましたが、どのような技法で描いているのか、

作品展では、15両編成の電車を描いたものを展示しました。15両の電車を1枚の画用紙に描くのではなく、電車が踏切を通過する時に連続で撮り、その中から5枚選んで描きました。5枚で1つの作品になるのです。電車が通るのを待ってTさんがシャッターを押しましたが、真剣な顔でシャッターチャンスを狙っていたのを覚えています。



どの絵が好きなのかなど、たくさんのかを聞かれました。終始ニコニコしながら答えていました。日々の活動中や運動の時間、はすの実周りを散歩する時に描きたい物や気に入った風景を、職員と一緒に写真に撮っています。また、「くを描きたい」と伝えてくることもあります。すぐにその写真を撮りに行くことは難しいですが、描きたい物を描けるように好きなバスや電車も見に行ったりしました。

「仕事」に来る場所

ここまで書いたように、想楽班では下請け作業を軸にしつつ、その他いろいろな活動を行っています。はすの実際の仲間からは「一人ひとりが仕事をしている、働いている!」という思いを強く感じます。その気持ちを大切にしつつ、みんなで楽しい時間を過ごし、やりたいことに挑戦できるよう一人ひとりに寄り添い、お互いに支えあえたらと思います。これからはたくさん作品や製品が誕生すると思いますので、楽しみにしててください。

蓮田はすの実作業所職員 六戸 敬典

おひさま通信

仲間の気持ちを大切に

蓮田はすの実作業所

蓮田はすの実作業所には23人の仲間が在籍しており、和香班・想楽班という2つの班で活動しています。今回は、私の所属する想楽班の仕事について書いてみたいと思います。現在、仲間10人職員2人で活動しています。主な仕事は、企業からの下請け作業、授産製品作り、表現活動を行っています。下請け作業では、食品パッケージのシール貼り・電気工事用ボルトの組み立て・ボールペンの組み立てです。みぬま福祉会運営前は下請け作業のみでしたが、景気や受注先の都合に左右されやすいこと、仲間たちの様子から、色々なことに挑戦できそうだと考え、試行錯誤ののち、現在の活動の形にたどり着きました。織り・絵画・草木染め・組み紐・刺繍・フェルト人形作り、食品製造等みんながやりたいことは挑戦してみるという気持ちで取り組んできました。現在の状態に辿り着くまでに何度



仲間への給料保障をするために
新型コロナウイルスが流行し、作品展や地域のお祭り等の行事が中止になり、授産製品の販売場所がほぼなくなりました。下請け作業に依頼したくない気持ちもありましたが、給料も保障しなければなりません。考えた末、一時的に下請け作業の受注量を増やすことにしました。増やすことで、納期に間に合わせなければならぬ心配もありましたが、仲間たちはそれぞれに力をつけていました。「たくさんあっても大丈夫、協力してやっちゃおう!」とやる気十分で頼もしい声

も聞こえてきました。「次はどのくらい仕事に来るかな?何色のボールペンかな?」と楽しみにしているほどです。実際に、量が増えても黙々と仕事に打ち込んでいる姿や、困っていると仲間同士で助け合う姿も増えていきます。企業の方との関係もとても良好で納品に行くとき「お疲れ様、大変だったでしょ」と声を掛けてくれたり、作業所で行う作品展に来ていただくこともありました。こういった関係性やみんなの姿を見てみると「自分の仕事、がんばろう」という気持ちを強く感じます。「働いている」と感じる大切な時間なのだと思います。受注量は状況によって考えなければいけません。自信と責任をもって取り組んでいるという意味では必要な仕事だと感じています。

一緒に取り組むことを大切に

班の中では、お互いに声を掛け合うことを大切にしています。下請け作業の流れですが、前後の人に材料をもらいに行ったり、渡したりすることが作業中に何度もあります。何も言わないで取ったり、渡したりすると「勝手に持って行った」「ここに置かないで」とトラブルも生まれます。「声を掛けてから」と話しているので「ちようだい」「いいよ」「あ

新たな作業への挑戦

今年度から新たに草木染を始めました。きっかけは、班で織りを行っていた、使う糸も自分たちで染めたら製品や活動の幅も広がるのではないかと、という思いからでした。出来た時に、より愛着がわくと思う、自分たちが暮らしている地域の物を使って染めてみることにしました。作業所で育ったみかんや枇杷の葉、

